

13:00-13:10 開会挨拶

13:10-14:30 キーノート・レクチャー：  
ニシャント・シャハーニ（ワシントン州立大学）  
「もう一つの世界を感知する：ディストピア的現在を  
通しての、ユートピアの唯物論的批判」

14:30-14:45 休憩

14:45-16:00 研究報告：  
生駒夏美（国際基督教大学）  
『『フランケンシュタイン』から『侍女の物語』まで：  
再生産とフェミニスト・ディストピア』

中村麻美（立教大学）  
『『サン・ジュニペロ』（2016年）における  
クィア・ノスタルジア』

ビューラー・シュテファン（東京大学）  
「ジェンダー化された身体を超えて？ 笙野頼子『ウラミズ  
モ奴隷選挙』のユートピア的地平線を問い直す」

16:00-16:20 休憩

16:20-17:30 ラウンド・テーブル

TVドラマや映画など、近年のポピュラー・カルチャーにおいて、クィアな  
もしくはフェミニズム的な表象に特徴付けられた作品が増えている。興味深  
いことに、それらの表象は、ユートピアまたはディストピアという、オルタ  
ナティブ・ワールドが舞台であることが多い。のみならず、クィアな表象は、  
ディストピア的絶望ではなく、どちらかというユートピア的希望の在り処  
として提示されがちであるのに対し、フェミニズム的な表象は、ディストピ  
ア的な設定が多い。前者に関しては『センス8』（2015-2018）や『ブラッ  
ク・ミラー』（2011-）の「サン・ジュニペロ」（2016）と「ストライキング・  
ヴァイパーズ」というエピソード（2019）が、後者に関しては『侍女の物語』  
（2017-）が例として挙げられよう。

この二つの傾向は、私たちにいくつか重要な問題を突きつける。まず、クィ  
アなものをユートピア的に表象することは、市場を意識したイメージ戦略あ  
るいはポリティカル・コレクトネスの結果にすぎないのか。それとも、クィ  
アなもののユートピア的な表象は、オルタナティブな、より良い未来を想像  
するための新たな方法を私たちに提供するのか。そうであれば、どのように？  
そして、誰のために？ また、フェミニスト・ディストピアの表象は、現在に  
おけるインターセクショナルなフェミニスト政治とどのように対応している  
のか。これらの論点を念頭に置きながら、このシンポジウムでは、近年のポ  
ピュラー・フィクションにおいて、クィアなもしくはフェミニズム的な視点  
がいかにユートピアまたはディストピア的想像力と交差し、重なり合うかに  
ついて考察する。



ニシャント・シャハーニ

生駒夏美

中村麻美

ビューラー・シュテファン

清水晶子

March 8 (Sun.) , 2020

フェミニスト/クィア・ユートピア&ディストピア：  
非規範的な欲望と身体を通して想像される  
オルタナティブ・ワールド